

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年 9月7日 (土) 南日本新聞

本校の梨の収穫について、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

収穫したナシを袋詰めしていく果樹班の生徒たち
11月6日、さつま町の薩摩中央高校



高校産ナシ 収穫が本番 さつま・薩摩中央高

さつま町の薩摩中央高校で、生徒が育てているナシが収穫の最盛期を迎えた。6日は生物生産科3年の果樹班4人が、7日の体育祭で売り出す実の袋詰め追われた。

同町は霧島市に次ぐナシ産地で、同校も県内の農業系高校で唯一、ナシ園を持つ。約20畝で4品種を栽培し、生徒らは枝切りや摘果、袋がけなど一年を通じて世話をしている。

本年度は「かごしまの農林水産物認証（K-GAP）」に挑戦。倉庫の整頓、肥料や薬剤の管理などを徹底し、7月に認証を受けた。高校では国分中央高（霧島市）のトマトに次いで2例目という。

体育祭では大玉系の「新高」130キロを並べ、1・1時前後500円で販売。袋に校名入りの認証マークがついており、有村永輝さんと瀬戸口翔太さんは「甘くジューシーなナシを味わって、学校のことも覚えてもらえたら」と話した。

（本坊弓子）